

いなむら市長の

「ひと咲き まち咲き あまがさき」

6月28日(火) 放送分

放送時間 7:45～、12:45～、16:00

再放送 6/30(木) 7:45～、12:45～、16:00～

7/2(土) 7/3(日) 17:00～

テーマ：「多彩で多才な職員」

市長 皆さん、こんにちは。市長の稲村です。

6月も終盤に差し掛かり、本格的な夏が近づいてきましたね。月に一度、お届けしているこのコーナー、湿気や暑さをさわやかに変えるような内容をお送りしたいと思います。さて今日は、3人の我が尼崎市の職員に来てもらいました。皆さん、よろしくお祈いします。

3人 よろしくお祈いします！

市長 それでは、ちょっと自己紹介をお願いしましょうか。

桂山 はい、こんにちは、保護第3担当の桂山です。平成27年度採用の2年目になります。入庁前は吉本興業で漫才師をしておりました。よろしくお祈いします。

武富 こんにちは、武富です。去年1年間、電通に。PRやイベントの運営について学んで、この4月から、都市魅力創造発信課で働いています。

浅田 こんにちは、疾病対策担当浅田です。オフでは、ハッピー浅田として、お笑いマジシャンとしても、活動しとります。よろしくお祈いいたします。

市長 はい、ありがとうございます。それでは、今日は皆さんに、ちょっと質問などもしながら、進めて行きたいと思ひます。よろしくお祈いします。

3人 よろしくお祈いします。

市長 はい。^{かつらやま}桂山さん。桂山さんは、吉本興業で漫才師をされていたということなんですけれども。まあ、まず聞きますわね。なんで、漫才師を辞めて、市職員になろうと思ったんでしょうか。

<桂山> あー、よく聞かれますね。漫才を3年、ピン芸人を2年ほどやってたんですけども、年齢的にも、ま限界かなというので、お笑いから身を引く、と決断したんですけど、民間で利益を求めるよりも多くの人役に立つ方が自分の性に合っているなというふうに思いまして、公務員を目指しました。尼崎市を志望したのは、やっぱり、ダウンタウンさんですとか、新人お笑い尼崎大賞にも、まあ、出場もしてたので、

市長 あっ、そうなんや。出てたんやね。なるほど。

桂山 はい、まあ。ま、5年連続予選落ちだったんですけども。ま、そういったところで縁を感じて、志望させていただきました。

<市長> なるほどー。芸人としての日々も大変だったと思うんですけども、ま、市役所は市役所でね、いろいろな大変さがあると思います。ま、仕事の内容は全くちがうと思うんですけども、率直に比べてみてどうですか？

<桂山> そうですね。やっぱりあの、芸人時代は舞台上でミスをしててもですね、自分でスベって自分の責任になったんですけども、今させてもらってるケースワーカーの仕事っていうのは、自分の判断ミスが、支援対象者の方の人生を変えてしまうこともありえますので、その意味で、大きな責任を感じて、同時にやりがいも感じています。

<市長> なるほどー、それはやっぱり、ならではの視点だなあとと思います。まあ、ね、舞台上で失敗できない、なるべく、お客さんに喜んでもらいたいと言う緊張感もちろんあると思うんですけども、ケースワーカーとしての責任感ややりがいというのは、また大きなものがありますよね。

<桂山> そうですね、はい。

<市長> はい、桂山さんは、お笑い芸人としてのそういった経験、現在の仕事に活かされているというふうにも聞きましたけれども、生きる場面、今のところ、ありますか？

<桂山> そうですね。やっぱり市民対応の部分でも大きいんですけども、昨年度なんかは、「お笑いの技術を活かした伝え方講座」というのを市民さん向けに行いました。

<市長> なるほど、それはじゃあ、ケースワーカーとして、っていうんじゃなくって、取り組んだ、取組ですね。

<桂山> はい、業務外の時間で行いました。人前での立ち振る舞い方とか、伝え方ですね、そういったものを、芸人さんが基本として行っていることを元にして、コミュニケーションのヒントをお伝えさせて頂く、という形でさせてもらったんですが、8月にですね、「みんなのサマーセミナー」という学びのイベントが行われるんですけども、そちらでも講座を行う予定になっておりますので、ぜひお越しいただけると・・・

<市長> おお、それは楽しみですね。私たちの誠意や姿勢っていうのが、いかに伝わるか、という意味では、少しテクニックや技術、訓練が必要な気がしますよね。

<桂山> そうですね。

<市長> そこは大いにみんなで学んでいきたいと思ひますし、こういう多才な職員が

いるというのは大変心強いなあと思います。

<桂山> ありがとうございます。

<市長> 桂山さんは、じゃあ、今後の目標は、なんか、ありますか？

<桂山> そうですね、今までは、お笑い芸人としてファンを増やしてたんですけども、
今後は市内のファンを増やしていきたいと思います。

<市長> おー、ぜひぜひ。さっきのね、いろんなスキルを共有するということも含
めてね、どんどん輪を広げてもらいたいと思います。ありがとうございます。

<桂山> ありがとうございます。

<市長> では、次、^{たけとみ}武富さん。

<武富> はい。

<市長> 去年1年間、東京の方でね、「電通」に派遣ということで行ってもらったん
ですけど、どうでしたか？

<武富> はい、電通では「人の心をどうやって動かすか」とか、あと、興味を持って
もらうには、今もうすでにあるものをどうやって組み直して、どういうふうに伝
えればいいのか、という方法を勉強してきました。

また「どういう部分に人は心を動かされているのか」という深層心理を探るこ
とで、効果的な情報発信につながると学んできました。

<市長> おー、なるほど。今は尼崎市役所に戻ってきて、都市魅力創造発信課、つま
り、まちの魅力を創って磨いていく、で、それを発信する、という部署で頑張っ
てもらっているわけなんですけれども。

<武富> 1年間の派遣の中で、今、もう情報がすごく溢れていて、実は「実際に体験
した友達の声」というのが、やっぱり「信頼できる人からの情報」なので、とて
も説得力があるということを感じてきました。今の仕事でも「尼崎を好きな人に
出会うと、尼崎の人が増えていく」という思いのもと、尼崎好きな人を増やす取
り組みをしています。

<市長> 尼崎を好きな人を、私たちは「あまらぶ」、なんて言っているんですけど、
そんな人を増やす取組は、今、どんなのが、最新では、ありますか？

<武富> はい、そうですね、例えば「影の尼崎観光特使」の取り組みがあります。実
はですね、「忍たま乱太郎」の原作者尼子騷兵衛さんが尼崎市の出身で、登場人
物に尼崎の地名を沢山使ってくださってるんですね。で、そういうことから、沢
山のファンの方が尼崎の地名巡りを楽しんでくださっています。そのときに、
地名を巡るだけではなくて、途中で出会った尼崎で体験したエピソードとか、尼
崎で出会った人たちなんかを、まだ知らない人に伝えてください！という取組が、
影の尼崎観光特使の取組です。

<市長> これね。若い女性の方が多みたいなんですけれども、本当に市内市外問わ
ず、たくさんの方が、尼崎市の地名めぐりに、、、

<武富> 国外からも来てくださっています。

<市長> おー、すごいです。他にもなんか、関連事業があるんですか？

<武富> はい、7月15日・16日・17日にあましんアルカイックホールでミュージカル忍たま乱太郎「水軍砦三つ巴の戦い！」があります。また、7月9日から8月28日には、尼崎市総合文化センターで「忍たま乱太郎ミュージアム特別企画展～尼崎の戦国探訪～」を開催します。チケットの購入方法など、詳しくは尼崎市総合文化センターHPをご覧ください。

<市長> ぜひぜひお願いします。ミュージカルは西日本初、で、ミュージアムのね、展示企画もやるということで、さすが100周年という感じなんですけれども、やっぱり、キャラクターの魅力はもちろん、地名に込められたまちの歴史なんかもね、尼子騷兵衛さんも、ものすごく時代考証もしっかりとされている先生ですので、皆さんぜひぜひ楽しんで、興味を持っていただきたいと思います。

武富さん、ありがとうございました。

<武富> ありがとうございました。

<市長> それでは！ もう中堅？ ベテラン？ 浅田さん。

<浅田> 中堅にしてください（笑）。

<市長> もう、市内では、ハッピー浅田と言えば結構もう名が知れているんですけれども。マジシャンということなんですけれども、なんでマジックを始めたんですか？

<浅田> それはもう、昔になるんですけども、ひきこもりがちのお子さんがいらっしゃるといって相談を受けて、あるご家庭を訪問したんですね。お母さんとはお話できるんですが、なかなか子どもさんが部屋から出てきてくれないと。で、ある日、僕が覚えてたての手品をなぜかお母さんに見せることになりましたら、お母さんも、面白い人来たよということで、とりあえず子どもさんを呼んできてくれて。子どもさんも、そういうことやって、ということで、来てくれて、で、そこですごく感動してくれまして。それから話も、打ち解けて、違う話もできるようになりました。ほんとにマジックの魅力というのは、老若男女ほんとに皆さんに伝わるんだな、というふうに感動しまして、以降、ハッピー浅田という芸名で、いろんな地域のイベントでもマジックを披露させていただけるようになりました。

<市長> なるほどー、無茶苦茶いい話ですやん。ハッピー浅田のこの芸名に込められた想いを、今日改めて知った気が、しましたね。

<浅田> もっと格好良い名前にしたらよかったと、今、反省をしているんです。

<市長> いやいや、いいと思うよ。やっぱり人をハッピーにしたいということで始まったマジックということなんです。そのときは、ちなみにケースワーカーをされて・・・？

<浅田> いえ、精神保健相談員をしておりました。

<市長> なるほどなるほど。そうですか。いや、今日もね、実は、ラジオでお見せできないのがとっても残念なんですけれども、なんとかレンジャーみたいなね、

恰好をしてきてるんですが、献血のPRに取り組んでくださっているそうで。
<浅田> 尼崎市と、献血を行っている日本赤十字社ってのは、実は、深いつながりがあるんですね。尼崎藩最後の藩主「櫻井忠興」が、コレラの蔓延に対して、博愛社という団体を結成して、多くの戦傷者を看護したんです。その功績が認められて、日本赤十字社が誕生することになったんですね。

で、尼崎も兵庫県献血等推進計画に基づきまして、特に若い方の献血を推進しています。僕も、2年前から献血の会場に立ちまして、PRを行ってたんですけども、その、櫻井忠興公の魂が僕の体に移りまして、突如「けんけつ係長」というのに変身したんですね。ヒーロー戦隊の赤レンジャーの格好になりまして、血液不足という敵と戦っているんです。

<市長 なるほどお～（笑）

浅田 そうです。敵は「血液不足」ということで。

市長 なるほど、なるほど～

浅田 伝わってますか？わかりますか？僕は今、赤い恰好をしてるんで（笑）

市長 なるほどお。

浅田 これで、まあ、献血をしてくださる方が普段の倍になったという日もありました。

市長 お、素晴らしい～

浅田 本当に、皆様のご協力に感謝しております。ありがとうございます。

<稲村> いや、すごいですねえ。この、すごいパワーを感じるんですけども、浅田さんのパワーの原動力というのは、どこにあるんでしょうか。

<浅田> 「笑顔」ですかね。とにかく、1日1回「誰かを笑わせる」ということを意識して、で、誰かが笑顔だと、自分もこうハッピーになって、パワーをもらえるような気がしています。

<市長> おお～なるほど。なんかね、芸人にも通ずるところがあるかもしれませんけど。

浅田 そうですね、若手には負けられない（笑）

市長 いいですねえ～。や、浅田さん、ぜひラジオをお聞きの皆さんに、ちょっと、こういう日々を過ごす上で、自分もハッピーに、周りもハッピーに、なんかアドバイスありますか？

<浅田> そうですね、僕が仕事をするうえで、まあ心がけていることがありまして、「ハードヘッド、ソフトハート」という言葉があるんですね。これは、「人と接するときは温かい心で。でも判断は冷静に。」と、いう形で取り組んで頂ければ、仕事もはかどるんじゃないかなと思ってます。

浅田 おおー、さすがちょっと先輩！ いい話が聞けました。ありがとうございます。私も、ぜひ心がけて頑張っていきたいと思います。これからも、ますますのご活躍を期待しております。

<市長> さて、今日は、多才な市職員をゲストに招きまして、いろいろな話を聞かせてもらいました。皆さん、本来の仕事を通じて、また業務外も含めて、本当に

熱い思いで、そして自分の個性と力を活かして活躍してくれてるのが分かって、とっても今日は嬉しかったです。皆で、尼崎市をより良くするために、頑張っていきましょう。

<浅田> 頑張らしましょうー

武富・桂山 頑張らしましょう！

3人 ばらばらや～全然揃わない。(笑)

市長 大丈夫です！それはほら、それぞれの個性を活かして頑張る市役所だから、ノープロブレムです。本当に今日は、ありがとうございました。お疲れさまでした。

3人 ありがとうございました！

市長 今回は、我が尼崎市の職員をご紹介してきましたが、いかがでしたでしょうか。皆個性的で本市自慢の職員です。これから尼崎市の魅力を、もっともっと磨いてくれることと期待しています。それでは、皆さん、さようなら！

以 上